



絆

教育目標「気概にあふれ主体的に考え行動する生徒」

～小さな学校の大きな誇り～

花巻市立湯口中学校

校報 No.17

令和7年7月4日

文責：校長（菊池）

湯口中三大ブランドの一つ「シンガク」取組

7月6日（日）に開催される湯口地区民大運動会での「シンガク」の披露に向けて練習を進めています。

演舞することに対する意識を高めるために、6月18日（水）の5校時に、上根子神楽保存会の皆様にご来校いただき、「三番叟（さんばんそう）」「岩戸開き（いわとびらき）」の2つの演目を演舞していただきました。生徒は、演舞者一人一人の細かいところまで気を配った踊りに魅了され、踊りによって場面や感情を表現できている様子に感心していました。



<民俗芸能を伝える意味>（配布資料より）

新しいものがどんどん増える時代で、忘れ去られてしまうにはもったいないものが民俗芸能の中にはたくさんあります。一度失ってしまえば、復活させることは難しいという気持ちを持ち、多くの人に触れてもらうことがだいじなのではないでしょうか。たとえ、自分が民俗芸能を踊らなくても、観客として民俗芸能を盛り上げていきたいものですね。



6月25日（水）から始まったシンガク練習は、1・2年生は1人踊りを覚える、3年生は3人踊りを覚えることを目標にスタートしました。最初2日間は指導者の照井 諭（てるい さとし）さんにご来校いただき、ご指導していただきました。

1人踊りも3人踊りも執行部が練習運営を進めました。1人踊りは、昨年度習得している2年生がグループで1年生へ模範を示す形で、3人踊りも昨年度習得している3年生が模範を示す形で、見よう見まねで、部分部分のアドバイスを生かしながら、必死に踊りの習得に努めました。堂前は、吹奏楽部の3年生（披露当日は残念ながら地区の吹奏楽コンクールがあり参加できません）が担当し、練習の雰囲気盛り上げてくれました。当日参加できない生徒も、てんざいと幣束づくりに取り組み、必要な数を完成させてくれました。

当日は、保護者の皆様の着付けの手伝い及び踊りを観覧していただきますようお願いいたします。



80年前の終戦5日前のできごと

6月24日(火)に「花巻空襲の事実を通じて、社会科(歴史)及び郷土学習の理解を深めるとともに、8月10日の戦没者追悼・平和祈念式典に奉納する『千羽鶴』作成(全校取組)の意義を考えさせる。」ことをねらいとして、博物館出前授業「戦争と花巻」を実施しました。

講師は、花巻空襲の解説をしていただいた松橋香澄学芸員、実物資料の解説を行っていただいた似内啓邦学芸調査員、大原まき子補助員、小原修功社会教育指導員に務めていただきました。

身近なところにも戦争の被害があったことを知り、実物資料を通して戦争の恐ろしさを感じ、「平和の尊さ」について思いを深くした1時間になったようです。

【花巻空襲とは】

昭和20年(=1945年)8月10日、花巻駅周辺及び花巻中心部を襲った米軍機による爆撃のこと。同日、旧宮野目村の岩手軽便鉄道(→現在のJR釜石線のこと)似内駅でも駅舎周辺や停車中の列車が爆撃され、多数の死者が出た。

被害状況は、花巻駅周辺では30名以上が犠牲、花巻中心部は10名死亡、大規模火災が発生し、673戸焼失。似内駅では乗客5名死亡。花巻空襲の犠牲者はほとんどが民間人だった。



伝統的な日本の衣服を着てみました

6月27日(金)の2・3校時に、2学年の家庭科の学習の一環として、ゆかたの着付けに取り組みました。講師には、太田代着物学院の学院長の太田代智恵子学院長をはじめ3名の先生方をお迎えし、ご指導いただきました。

今回の学習を受けて、お祭りなどでゆかたを着る機会があることを期待したいと思います。



【第2回読み聞かせ】

1学年	沖村正行さん	『注文の多い料理店』で、宮沢賢治さんの世界観を説明。 『不可能を可能にする大谷翔平 120の思考』から大谷語録を紹介。
2学年	佐々木優樹さん	『脳のひみつにせまる本』で、スマホ脳について説明。
3学年	高野橋加子さん	『舟を編む』を取り上げ、辞書作りについて説明。